

そよかぜ



佐久市社会教育委員だよりNo.4
2020.12 発行

**「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に社会教育の風を吹かせ、
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！**

■「長野県の子どもの自殺の現状と課題 ～私たちにできること～」を受講して

(畠山 文雄)

コロナ禍の中、G o T o キャンペーンが本格的にスタート。私も重い腰を上げ、今年初めてのG o T o 研修となりました。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、講師はオンラインで、会場のスクリーンを見ながらの受講となりました。

初めに、長野県では若年層を除く自殺者数は減少傾向であるが、未成年者の自殺者数はやや増加傾向であり、かつ未成年者の自殺死亡率は全国の中でも高い状況にあり、子どもの自殺対策は喫緊の課題であることが報告されました。その中で、『ゲートキーパー』という、聞きなれない初めて耳にした言葉…。皆さんはご存じですか？

『ゲートキーパー』とは、「生きることを支援する人」＜命の門番＞という意味で、その役割は、悩んでいる人に「気づき」、話を「傾聴」し、必要な支援に「つなぎ(つなげる)」、「見守り(る)」人のことで、そのための特別な資格は要らないようです。講師は、NHKに入局し「クローズアップ現代」などを担当、自殺遺児への取材で、追い込まれて自殺する現状を目の当たりにして自殺問題に関わるようになり、NHKを退社、NPO法人を立ち上げたそうです。2018 年からは、長野県の「子どもの自殺対策プロジェクトチーム」の委員をしているとのこと。幅広く講演をされているようで、言葉の端々から信念のある、力強い熱い気持ちが伝わってきて、有意義な時間を体験することができました。

講演で一番印象に残った内容をご紹介します、研修の報告とさせていただきます。

自殺のリスクが高まる時

生きることの促進要因

- △将来の夢
- △家族や友人との信頼関係
- △やりがいのある仕事や趣味
- △経済的な安定
- △ライフスタイル(問題対処能力)
- △信仰
- △社会や地域に対する信頼感
- △楽しかった過去の思い出 など

<

生きることの阻害要因

- ▼将来への不安や絶望
- ▼失業や不安定雇用
- ▼過重労働
- ▼借金や貧困
- ▼家族や周囲からの虐待、いじめ
- ▼病気、介護疲れ
- ▼社会や地域に対する不信感
- ▼孤独 など

■ 参加見学記 公民館講座

佐久市社会教育委員は、各委員が個々に日常生活の中で社会教育に関する活動を行うほか、令和元年度は「社会教育委員会」全体の取組として、「佐久市子どもまつり」でアルファ化米による非常食体験の提供と、昔の遊びブースでの指導を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により子どもまつりなどが軒並み中止となったため、昨年のような活動を行うことができなくなっていました。そのため、各自で公民館の講座に参加・見学し、社会教育についての見聞を広めました。

◎ 子ども公民館「牛乳パックで何作る？～これは楽しみじゃ！～」

望月公民館 8月8日(土)

(依田 とく代)



まず、会場の様子ですが、これからのイベントや行事は、「三密にならないこと」が最重点課題になると思いますが、参加する家族をブルーシートを利用して区画分けするなど、感染防止対策に工夫がされていて、安心感がありました。

工作の内容については、対象学齢の子どもにはちょっと難しいくらいの内容で、説明が少ないのではないかなと感じましたが、一方で、大人を夢中にさせていて、とても

微笑ましい光景でした。作ったもので遊ぶ時間があつたのも良かったと思います。

船に水が入ってしまったり、前に進まなかったりするのは何故だろう？

答えを教えることは簡単ですが、自分で考えたり、いろいろ工夫してみたりする時間が大切なことだと感じました(このあたりの構成はさすがですね)。色々な点でとても参考になりました。楽しませていただいてありがとうございました。



◎ 子ども公民館「牛乳パックで何作る？」

～これは 楽しみじゃ！～

望月公民館 8月8日(土) (中澤 功)

「やったー！あったー！」

駒の里ふれあいセンター玄関ホールに、隠れていた秘密のマークを自作のライトで発見した子どもの嬉しそうな声が響きました。

牛乳パックで「船(ゴム動力)」と「手提げライト」を親子で作る講座。

「困ったことない？」「電気がつかない…」

配線を調べ、接触を調べ、そこにいるみんなが関わる。

親子のふれあい・地域の講師の方とのふれあい、一緒に参加した人とのふれあい等々、まさに社会教育でした。



牛乳パックを使って
船とライト(懐中電灯)
を作りました

◎ 「初心者俳句講座(第2回)」 臼田公民館 8月18日(火)

(柳澤 優子)

「作句する際の俳句の型について学ぶ」を16人の方が受講しました。受講生からは「俳句は奥が深く何回も作り直していますが、仲間の方々の作品を読み、そのつど勉強になり、仲間作りとしても楽しいです。」と感想が聞かれました。

以前、田口小学校5年生の男子から、毎日見守り隊をしている私に感謝とお礼の手紙が届き、最後に俳句が添えられていました。



「蚊にさされ とてもかゆくて 腹が立つ」夏至

素直で、楽しく、笑いを誘う、素朴な作品に感動しました。

おもわず私も俳句初挑戦でお返事。 「通学路 孫の笑顔と 夏の空」

元気に通学している生徒たちは、皆孫のように可愛く、大切という気持ちです。俳句に無学の私ですが、これぞまさしく「生涯学習」かな。



◎ 「星空ウォーキング！～星の教室(夏)～」 臼田公民館 9月10日(木) (奥村 繁子)

うすだスタードームの職員の方から天の川や星の明るさの説明をお聞きしてから、外に出て木星・土星・火星を望遠鏡でのぞいてみました。天気が心配でしたが、雲の切れ間から木星と輪がかかった土星が見えたときは、本当に感動しました。

これからもこのような機会を増やしていただき、大勢の方に夜空の星の美しさを楽しんでいただきたいと思います。



■ お知らせ

◎ 佐久市社会教育委員を務められた工藤健二様が、表彰を受けられました。

工藤健二様には平成25年から令和元年まで、長年にわたり佐久市社会教育委員を務めていただいていたのですが、このたび、長野県社会教育委員連絡協議会表彰を受けられました。

工藤様には、社会教育委員として様々なご活躍をいただくとともに、佐久市少年センター補導委員協議会の会長として青少年の健全育成にもご尽力いただき、佐久市の社会教育の発展に大いに貢献していただきました。

◎ 新任委員を紹介します。

令和2年7月から、新たに井出眞一氏が社会教育委員に委嘱されました。

選出母体は佐久市地域公民館連絡協議会です。

■ 編集後記

地域公民館連絡協議会会長として社会教育委員を拝命いたしました井出眞一と申します。

小学校3年生の社会科に公民館を題材とした学習があります。以前小学校に勤めていた時、地区の公民館で体験学習をさせていただきました。様々なジャンルの学習グループに分かれて体験活動をしてきた子どもたちは、楽しかった活動の様子やそこで作った作品を目を輝かせながら報告してくれました。「大人になっても勉強しているってすごい。」「うちのおばあちゃんも書道に通ってるよ。」そんな言葉も聞かれました。絵手紙の学習をしてきた子からは、翌年の正月に絵手紙の年賀状が届きました。

生涯学び続けることのできる場があり、それを生き甲斐にされている皆さんがいらっしゃるって、すばらしいことだと思います。学ぶ楽しさを大切に、継続的な学びを今後も充実させていきたいものです。

どの学習グループも今年は新型コロナウイルスの影響で思うように活動できず、様々な工夫をされているのではないのでしょうか。早く終息を迎え、通常の活動ができるようになることを祈るばかりです。

【 発 行 】 佐久市社会教育委員

〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

☎ 0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp